

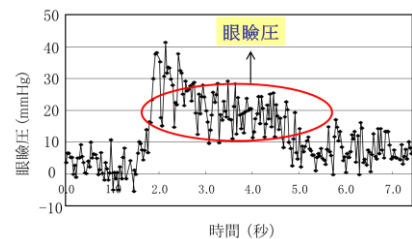
論文タイトル: Superior Epithelial Arcuate Lesions 発症における眼瞼圧の関与。

掲載雑誌、年、巻、頁: 日本コンタクトレンズ学会誌 2011;53(1):12-17.

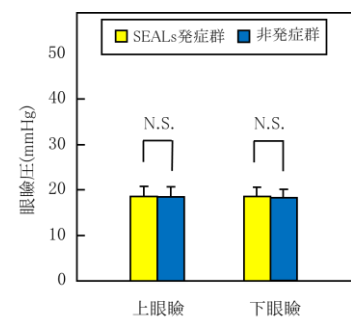
著者名(所属): 太田清彦 (メニコン、愛媛大学大学院医学系研究科視機能外科学分野)、
大橋裕一、白石 敦 (愛媛大学大学院医学系研究科視機能外科学分野)

概要: 触覚センサーを用いて簡便に眼瞼圧を測定できる測定システムを開発し、[Superior Epithelial Arcuate Lesions\(SEALs\)](#)発症への眼瞼圧の関与について調べました。その結果、SEALs 発症と眼瞼圧の因果関係は明らかにはできませんでしたが、眼瞼圧を測定する事により他の角結膜疾患やコンタクトレンズのフィッティングとの因果関係が明らかになる要素を秘めていると思われました。

現在我が国には 1600 万人以上のコンタクトレンズ(CL)装用者がいると推測され、CL による合併症の増加が懸念されています。CL 装用に伴う角膜への影響には、CL 自体による機械的刺激、角膜への酸素供給不足、病原菌付着などがあります。SEALs は、ソフト CL 装用中に認められる角膜上皮障害の一つで、無症候性のことが多く、軽い異物感を自覚する場合でも、CL 装用中止により速やかに改善します。SEALs 発症の要因は、レンズの材質やデザイン、瞬目による角膜上方の圧迫、角膜周辺部の形状異常(変化)に伴うなど機械的刺激にあると報告されています。しかしながら、SEALs 発症の要因の一つと考えられている角膜上方の圧迫、すなわち眼瞼圧を実際に測定しSEALs 発症との関連を検討した報告はありません。我々は、新たに眼瞼圧測定システムを開発し、SEALs 発症における眼瞼圧の関与について検討しました。



眼瞼圧との関係を調べるために、SEALs 発症群 8 名 13 眼(平均年齢 23.5±1.6 歳)、非発症群 42 名 81 眼(同 23.6±1.9 歳)について、比較検討しました。上眼瞼の眼瞼圧は、SEALs 発症群 18.87±2.37mmHg、非発症群 18.74±2.30mmHg、また下眼瞼の眼瞼圧は、SEALs 発症群 18.93±2.15mmHg、非発症群 18.50±2.13mmHg でした。上下眼瞼とも眼瞼圧は、SEALs 発症群と非発症群において、統計学的に有意な差は認められませんでした。



今回 SEALs の症例が少ないために統計学的に有意な差がなく、眼瞼圧と SEALs との因果関係は認められませんでした。しかし、眼瞼圧を測定する事により他の角結膜疾患や CL のフィッティングとの因果関係が明らかになる要素を秘めていると思われました。

解説:

[Superior Epithelial Arcuate Lesions\(SEALs\)](#):

ソフト CL 装用中に認められる角膜上皮障害の一つで、角膜上方の 10~2 時、角膜輪部から 1~2mm 程度離れた部位に認められる弓状の病変。

